

話すこと〔発表〕から話すこと（やり取り）へつなぐ活動（遠隔授業）  
(NEW HORIZON English Course 2  
Unit 2 Food Travels around the World)

①話・発

①話・や

②評価

③タブ

④ロイロノート等

【ここがポイント！】

①「発表からやり取りへ発展」

ALTに発表した「呉紹介」を元に、やり取りへとつなげる。ペアでやり取りをする際には、6つのステップ（①Q&A、②Q&AA、③Q&AAA、④自分のことを伝えて質問、⑤同じ質問を相手にたずねる、⑥1分間トーキング）で、繰り返し練習する。ステップ4、5では、理由をつけて述べたり、話題を広げたり、また、関連性のある質問をしたりするように、スモールステップで指導する。

②「一人1台端末を使った遠隔授業でのやり取り」

Google ミートを使い、他市町の生徒とやり取りをする。画面を共有し、自己紹介やお互いの町を紹介し合ったり、その内容に関する質問をし合ったりする。最後に、自己評価をロイロノートに提出する。（後日、「主体的に学習に取り組む態度」の評価に反映する。）

【実践の目標】

ALTに呉の紹介をしたり、他市町の生徒とお互いの町を紹介し合ったりすることができる。

【実際の場面】

1. 呉のおすすめスポットを紹介し合い、自分の発表内容を練り上げる

単元の導入時、ペアで、ALTが呉に来たら行ってもらいたい場所と、そこでできることを即興で伝え合った。ペアを替え、お互いに紹介し合うことを繰り返し、よりよい発表となるよう、自分の発表に生かせる表現を集めた。

2. メモを作成し、メモを元に発表の練習をする

発表に必要な情報のメモとして、ロイロノートのシンキングツール（くらげチャート）を活用した。この簡単なメモを元に、呉のおすすめスポットの発表練習を行い、さらにペアで紹介し合い、お互いにアドバイスし合った。



3. ALTに発表する

Keynote を使って発表のスライドを作成し、スライドを見せながら、1人ずつALTの先生に呉の魅力を紹介した。（紹介の様子を動画に撮り、後日、指導者が評価を行った。）

4. ペアでお互いの発表の内容に関する質問をし合う

ペアの相手の自己紹介や呉紹介を聞いて、内容に関する質問をし合った。ペアの相手を替え、6つのステップで、繰り返しやり取りの練習を行った。

5. 遠隔授業に向けて、呉紹介の発表を練り直す  
(家庭学習)

ALTに発表した際に撮影した呉紹介の動画を見返し、新しく習った表現を加えて、発表内容を練り直した。

6. 遠隔授業

Google ミートを使い、他市町の生徒とペアになり、お互いの自己紹介と地域の紹介を行った。その後、紹介内容に関する質問をし合った。

7. 評価を行う

遠隔授業に関する自己評価をロイロノートに提出した。（後日、「主体的に学習に取り組む態度」の評価に反映した。）

【成果と課題】

【成果】

- 原稿をあらかじめ準備するのではなく、シンキングツールをメモとして使うことで、メモを元に自分が伝えたいことを伝えられるようになった。
- 発表からやり取りへつなげたことにより、発表の内容を踏まえて相手に質問することができ、やり取りで目指している関連性のある質問をすることができるようになった。
- 遠隔授業で他市町の生徒と触れ合う機会を設定したことで、お互いの町の良さを伝え合うことができた。何より生徒全員が、英語を使ったコミュニケーションに意欲的に取り組むことができた。

【課題】

- やり取りをする上でリアクションがワンパターンになるため、ALTと話す機会を増やしたり、普段の授業で他の表現を練習したりして、自然な表現の幅を広げる必要がある。

呉市立広南中学校

